

# 序章

今、踏み出すその一歩は大津町の「宝」のため

「子育てのまち」という名目を掲げた自治体が多くなってきた。それは、子育ての重要さが改めて見直されている結果だろう。もちろん大津町も「子育てに夢がもてるまち」を目指し、先進的な自治体となっている。しかし、さらに高みを目指し続けたいと「子育てに夢が持てるまち」と言い続けることはできないだろう。

そして、10月1日に「大津町子育て・健診センター」が開所した。同センターは、肥後大津アルコール工場の跡地にあり、同工場の事務所棟を改修し、周辺整備を行って開所した。大津町は、同工場の敷地を平成20年に購入。改修などの事業費を1億476万円でかけて、子育て支援と健康推進の中心となる拠点を移動させた。

1階は健診ルームがあり、乳幼児健診などの健診に関する業務が、更に効率的に行われるようになった。2階は

子育てルームがあり、「すこやか広場」は常時開かれた場所となっていて、無料で利用することができる。ほかにもエレベーターや多目的トイレなど利用する人のことを考えて設計してある。

また、町老人福祉センターにあった「子育て支援センター」も移転し、安心した子育て支援の環境が整っている。平成16年3月に作られた「大津町次世代育成支援行動計画 おくえんずアキシヨンプラン」でも「おおづセントラルパーク」(プレーパーク)の構想がワーキングショップにより具体化され、検討がされ続けていた。そして、5年後に子育て・健診センターが開所した。これからは広場などの計画を検討していくことになっている。

町が大津町の中心部にこの施設を持つてきたということは、町の子育てや町民の健康に対して前向きな姿勢であるということだ。大津町はアルコール工場の功績を感謝しつつ、町のために前に進まなければならない。

今、大津町は「アルコール工場のあったまち」から、「子育てのまち」へと一歩踏み出した。



ゆったりとしたスペースで子どもと一緒に時間を過ごすことができます。

## 肥後大津アルコール工場跡地に「大津町子育て・健診センター」がオープン



大津町と言えば「からいも」。「からいも」と言えば大津町。この2つのつながりには、長い歴史がある。そこから分かる大津町の進むべき姿。大好きな大津町をもっと知ろう。



まちおこしの  
マテリアル

マテリアル……材料や素材のこと